第 41 回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード
議事要旨

１　日　時　：令和８年 10 月 13 日（火）10:00～12:00

２　場　所　：新宿住友ビル 47 階　スカイルーム Room４
　　新宿区西新宿２－６－１

３　出席者　：（委員）
　　◎黒沢　文貴（東京女子大学名誉教授）
　　〇田家　　修（田家行政書士事務所　行政書士）
　　兼川　真紀（インテグラル法律事務所　弁護士）
　　亀井　昭宏（早稲田大学名誉教授）
　　斎藤　靖二（公益財団法人日本博物館協会評議員）
　　名越　健郎（拓殖大学客員教授）
　　［敬称略、◎は座長、〇は座長代理］
　（総務省）
　　谷輪　浩二　官房審議官
　　栗原　　淳　大臣官房総務課管理室長

４　議事次第
・令和８年度平和祈念展示資料館運営業務実施報告書（中間報告）について

５　議事要旨
　令和８年度平和祈念展示資料館運営業務実施報告書（中間報告）を委託業者が報告、質疑応答が行われた。

　委員の主な発言等は以下のとおり。

〇　企画展は、とても広報用チラシがよく出来ていると思うが、期待して実際に足を運んでみると展示スペースが狭く物的な限界があり、展示スペースが少ないと展示品の数も非常に限られてしまい、チラシと実際の展示にギャップがあるような感じを受ける。
　リニューアルを考える時には、人形展示をやめて実物展示に変えて欲しい。

〇　大勢の人に館の存在を知ってもらう、こういうものが展示されてるんだということを知ってもらうという努力も必要だと思うが、あれだけ内部が充実してくると、今度は質が問われると思う。
　限られている予算の中で、実施報告書を拝見し、資料館の展示も本当に以前に比べて、充実しており見がいがあるという感じを非常に持たせていただ

いたので、引き続き努力をしていただきたい。

○　記憶の継承は難しく、若い方への対応をどうするのかと思っていたが、ワークショップや研究への助力等で実を結びつつあり、記憶の継承がだんだん少しずつ目に見える形になってきていると思う。

○　日本学術会議の企画提案の紹介もあったが、他との合同展、関連施設ネットワーク会議は色々な形で活動を広げていると思うのでぜひ大事にしていただきたい。

○　日本学術会議の企画、新機軸として大いにやっていいと思うが、中立性への配慮は必要。

○　自分の家族の経験、あるいは展示をご覧になっての感想が具体的なものとしてフィードバックされてくるということは次世代への継承の成果であり、来館する若い人にとっても、自分たちも何か展示物に貢献できるかも知れない、展示してもらえるかも知れないというのは、ある種の来館するモチベーションにもつながってくる。

次の段階としてこの成果を次の取り組みとして、つなげていただきたい。

そういう点で言うと、12 月に開催予定の 100 年記念シンポジウムで、フォーラム形式で若い人たちを中心に開催するのも一つの大きな良い試みだろうと思う。

（本議事要旨は、総務省大臣官房総務課管理室において作成した。
速報版であり、今後、修正する場合がある。）